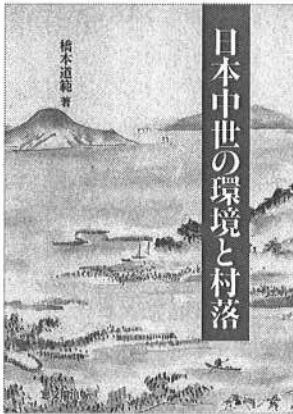


日本中世の 環境と村落

橋本道範 著

第一部では、中世琵琶湖漁撈と首都京都での消費という問題を中心に、中世村落にとつての「水辺」における漁撈の歴史的意義を問ひ、第二部では、他地域の検討もふまえ、十三世紀を画期として、小さなムラが地域資源利用の主導権を握るとする「生業の稠密化」論を提起し、従来の集約化論や集村化論を止揚する。
自然環境と人間との関係性を議論の中心に据えた村落論を構築する意欲作。



▼A5判・四五〇頁／定価：本体八、四〇〇円（税別）

ISBN978-4-7842-1764-9

【3月刊行】

◎目次◎

序章 戦後における歴史学の自然環境理解と村落論

環境史という潮流／日本中世史分野における自然環境理解／「網野史学」／「自力の村」論とテリトリー的領有論／日本中世史分野における環境史の研究

第一部 生業と村落

第一章 琵琶湖における一三世紀のエリ漁業権の転換とそこにおける村落の役割

問題の所在／エリの特徴と歴史的展開／奥鳴におけるエリ漁業権をめぐる紛争／デイスカッション

第二章 中世における琵琶湖漁撈の実態とその歴史的意義

「湖辺」の漁撈を中心に
中世琵琶湖「漁業史」研究の到達点と限界／「湖辺」の中世村落と漁撈／漁撈の変質とその歴史的意義

第三章 中世における「水辺」の環境と生業―河川と湖沼の漁撈から

「水辺」の認識／「水辺」の漁撈／「水辺」の漁撈の位置
補論1 中世琵琶湖における殺生禁断と漁撈
寺辺殺生禁断と石山寺／長命寺寺辺殺生禁断とエリによる漁撈

補論2 寺辺殺生禁断試論―宗教的戒律がつくる心理的景観

「寺辺」という不可思議な領域／寺辺殺生禁断とは／琵琶湖地域の寺院と殺生禁断

補論3 中世前期の堅田漁撈

「賀茂御祖皇太神宮諸国神戸記」所収堅田関係史料の紹介
「賀茂御祖皇太神宮諸国神戸記」について／中世前期の堅田漁撈／史料紹介

補論4 年中行事と生業の構造―琵琶湖のフナ属の生態を基軸として

消費としての年中行事／年中行事と神饌／魚介類の消費と生態、そして生業／「自然そのもの」の「論理」と環境史

第四章 一五世紀における魚類の首都消費と漁撈

琵琶湖のフナ属の旬をめぐる
首都における魚類消費と旬／フナ属の名産地／フナ属の加工形態・料理法と消費の季節性／堅田鮎と堅田漁撈

第二部 庄郷とムラ

第五章 荘園公領制再編成の一前提―辻太郎入道法名乗蓮とその一族

若狭国太庄末武名主職相論／御家人乗蓮／御家人化のからくり／乗蓮の限界

第六章 王家領備前国豊原庄の基礎的研究

豊原庄の成立とその性格／重源による開発とその後の相論／王家領豊原庄の内部構成

第七章 近江国野洲郡兵主郷と安治村

中世村落の多様性・不安定性・流動性・階層性について
兵主郷の水利・祭祀構造／兵主郷の成立／兵主郷と安治村

第八章 中世の「水辺」と村落―生業の稠密化をめぐる

「水辺」という環境／生業の稠密化／「水辺」とムラの機能

ははしもと・みちのり…1965年岡山県岡山市生。京都大学大学院文学研究科博士後期課程国史学専攻中退、京都大学博士（文学）。現在、滋賀県立琵琶湖博物館専門学芸員。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel. 075-751-1781 fax. 075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	日本中世の環境と村落		本体8,400円(税別)	ISBN978-4-7842-1764-9
お名前		tel			
		e-mail			
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い)				
			本書HPのQRコード		書店番線印

中世村落の景観と環境 山門領近江国木津荘

水野章二編

近江の湖西、高島郡の木津荘(現・新旭町)は、山門の寺務機構が管理・運営する天台座主直轄の重要荘園である。木津は中世前期においては、琵琶湖西岸の重要な津であったが、中世後期にはその地位を失う。以前より木津近辺の湖底遺跡から、かつてこの地域に内湖が存在したことが明らかとなっており、また室町初期の帳簿に記載されていた耕地の一部が、現在は湖中に沈んでいることも知られている。琵琶湖の水位変動や湖岸の沈下、あるいは津の立地変化などの問題を解くカギが、この地域に遺されているのである。荘域は棚田の景観を示す丘陵緩傾斜地に広がる村落から、琵琶湖に接した湖岸低地に立地する村落まで、地形条件に対応した多様な村落を包摂しており、中世村落のさまざまなタイプを一荘園内で確認することもできる。本書はこの木津荘に残る検注帳・引田帳ほか文献の詳細な検討、地表に残されている水路や水田の形状、地名・伝承など「生きた文化財」の調査から、山門領荘園の実態と中世村落の景観に迫る。

▶A5判・392頁／本体6,800円(税別) ISBN4-7842-1198-5

環琵琶湖地域論

西川幸治・村井康彦編

地域研究の深化が求められる昨今。本書は、滋賀県立大学の研究スタッフが、琵琶湖をとりまく自然・経済・民俗・遺跡などをとりあげた成果。

【内容】

序説—近江という地域(村井康彦)／中世商業村落の生活と環境の整備—村座と商人座の掟を中心に(脇田晴子)／人と自然の関係史素描—中世前期の環琵琶湖地域を中心に(水野章二)／江戸時代における琵琶湖の鳥獣について—猟場支配の観点から(東幸代)／琵琶湖湖底遺跡の研究—三ツ矢千軒遺跡の調査(林博通)／内湖のあった生活—野洲川デルタの場合(高谷好一)／溜池のある風景—特殊重粘土地帯の農と風土(黒田末寿)／近江のムラの文化を考える(武邑尚彦)／マツリゴトの機能とその現在—びわ町川道のオコナイ改革をめぐって(谷泰)／地域研究以前(梅原賢一郎)／地域文化財の保存修景—あとがきにかえて(西川幸治)

▶A5判・340頁／本体7,000円(税別) ISBN4-7842-1175-6

※中世村落の景観と生活

—関東平野東部を中心として

原田信男著

思文閣史学叢書

はじめに地域ありき—関東平野東部を中心に現地調査にもとづき、地形や伝承、中世・近世文書や地誌類などの豊富な資料、さらに地理学・考古学などの隣接諸科学も援用して、いくつかの典型的な中世村落の事例復元を試み、生活の諸相をふくめて総合的かつ具体的に考察し、近世への展開をも見通した大著。

【内容】

関東平野の地形条件／中世利根川の流路と地形状況／中世における関東平野の様相／村落景観の研究史と方法／古代の郷と中世の荘園／中世荘園の復原と近世郷荘名／中世荘園の耕地状況／村落景観の諸類型と地形条件／山麓型の中世村落—長岡郷と新田荘の村々／深い谷田型の中世村落—八木郷と結縁寺村／低地型の中世村落—若林郷を中心に／乾田低地型の中世村落—卒島郷を中心に／人工堤防型の中世村落—高野郷を中心に／中世の集落—村落の領域と補完要素 ほか

▶A5判・640頁／本体10,800円(税別) ISBN4-7842-1022-9

近江の古像

高梨純次著

古くから豊かな文化を育んできた近江の地は、仏教美術の宝庫であり、特に仏像は質・量ともに全国有数のレベルを誇る。本書は、滋賀県立琵琶湖文化館・県立近代美術館で、近江の仏像に関する展覧会の企画や調査・研究に30年以上にわたって携わってきた第一人者が、主に8世紀から11世紀の近江の古仏について、その研究成果を集成する。

▶A5判・420頁／本体9,000円(税別) ISBN978-4-7842-1761-8

石山寺の信仰と歴史

鷲尾遍隆監修／綾村宏編

琵琶湖畔瀬田川のほとりに荘重な伽藍を構える石山寺は、奈良時代、聖武天皇の勅願により創建され、古くから観音信仰の聖地であり、多くの人たちによってその信仰と文化が育み守られてきた名刹である。石山寺の信仰・歴史・美術・文学・経典を、第一線の研究者が、豊富なカラー図版とともに解説。オールカラー、図版150点。

▶A5判・180頁／本体1,800円(税別) ISBN978-4-7842-1387-0

近世琵琶湖水運の研究

杉江進著

本書は、古代以来、全国流通路の中でも重要な位置を占めていた琵琶湖水運の近世について、より歴史的な視点からその全体像や特徴を描き出すものとするものである。近世における堅田の変貌、後背地との結びつきにより分けられる三地域(「諸浦の親郷」(堅田・大津・八幡)・湖北四ヵ浦・彦根三湊)の対抗関係、船の航行と船支配の関係という三つの視点を軸に、近世前期琵琶湖水運の構造と特質、廻船規定、諸浦の盛衰を取り上げて論究する。またその前提として織田信長による琵琶湖水運支配、琵琶湖を航行した船の名称をも具体的に検討し、従来の認識・評価の問題点を指摘する。

今年で琵琶湖水運研究30年という節目を迎えた著者が、大津をはじめとする琵琶湖水運史上重要な湊の自治体史編さんに携わりつつ、そこで出会った史料と丹念に向き合いながら、あためため深めてきた研究成果。

▶A5判・464頁／本体9,000円(税別) ISBN978-4-7842-1551-5

地域開発と村落景観の歴史的展開

—多摩川中流域を中心に

原田信男編

関東平野西部の多摩川中流域をフィールドに、開発と景観という観点から、地球環境の変遷を問う人間の営みの歴史をたどる。豊富な考古遺跡・遺物にくわえ、村絵図・地方文書などの文献史料を手がかりとし、旧石器時代から前近代にわたって通史的に論じる。編者を中心に、20年におよぶ年月をかけた行われた共同研究の成果。

【内容】

先史時代における日野・八王子地区の開発と景観／古代における集落と谷戸の開発／中世～近世における丘陵部の開発と景観／中世～近世における沖積地の開発と景観／近世中・後期における低地部の開発と景観／近世中・後期における台地部新田開発の様相／近世における開発と景観の諸相／近世における丘陵部の村落景観と親族・生活相互扶助組織／近世の日野・八王子地域における耕地開発と宗教施設／近世の日野・八王子地域における焼畑の位置 ほか

▶A5判・486頁／本体9,000円(税別) ISBN978-4-7842-1555-3

中世寺院社会と民衆 衆徒と馬借・神人・河原者

下坂守著

中世において比叡山延暦寺が果たした歴史的役割を、同寺の活動実態とその支配下にあった京・近江の民衆との関係を中心に考察する。山門の「惣寺」がどのような組織と機能をもつものであったかを明らかにし、足利義満以降の武家政権との関係や、近江坂本の在地人と日吉社の大津神人が山門の活動にどのような影響を与えたかを論じる。

▶A5判・432頁／本体7,500円(税別) ISBN978-4-7842-1779-3

戦国大名佐々木六角氏の基礎研究

村井祐樹著

可能な限り一次史料を用い、六角氏や家臣の動向、実態など基礎的事実を明らかにする。附編として、応仁元年(1467)～元和6年(1620)の、六角氏及び家臣の名が見える記録類を全て網羅した230頁におよぶ史料集の稿本を付し、『戦国遺文 佐々木六角氏編』とあわせることで、戦国時代の佐々木六角氏関係史料はほぼ全て集成し得る。

▶A5判・530頁／本体11,600円(税別) ISBN978-4-7842-1663-5

祈りの文化 大津絵模様・絵馬模様

信多純一著

江戸時代から明治・大正そして現在まで、近江大津追分にて作られ、手軽な土産として愛された民画・大津絵。その多彩に綾なす信仰、祈り、教訓、そして遊びの面々は、多くの人々の想念の数々を端的に映し出すものである——。その起源・絵馬との共通点・画題の意味など新考察を加え、多くの図版をあげて解説した全大津絵の事典。

▶B5判・178頁／本体3,500円(税別) ISBN978-4-7842-1425-9

京都の歴史災害

吉越昭久・片平博文編

歴史災害を復原することは、過去の人々の災害への対応や考え方を知ることと共に、減災の知恵を学ぶことでもある。本書では、歴史上、京都を襲ったさまざまな災害をとりあげ、地理情報システム(GIS)などによる災害範囲や規模の復原、特徴や被害発生時の社会的背景の分析、また人々の取り組みなどを論じる。

▶A5判・322頁／本体2,300円(税別) ISBN978-4-7842-1643-7

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。